第3種郵便物認可

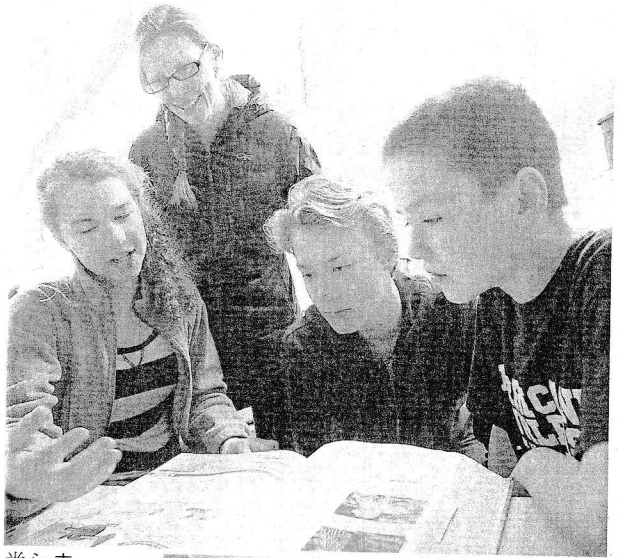
世界発 2019

学校通わず 先生は親

ホームスクーリング 米で広がる

「不安はあるが 家族の時間大切に」

子供を学校に通わせず、自宅で親が学習の面倒をみる「ホームスクーリング（HS）」が米国で広がっている。公教育に代わる選択肢になるのだろうか。（ワシントン＝染田屋竜太）



ホームスクーリングを選んだクリスティン・ヤシュコさん（左から2番目）の家族＝いずれも米バージニア州オークトン、染田屋竜太撮影

「どこまで進んだ？」。クリスティン・ヤシュコさんが、長女のアルドリンさん(15)の読む本をのぞき込む。高校2年に相当するアルドリンさんが取り組むのは大学生用の生物学の参考書。「今は内臓器官の仕組みを学んでいる」とアルドリンさんは笑顔だ。

バージニア州オークトンに住むクリスティンさんは、アルドリンさんが小学校に上がる時、HSを選んだ。「子供に向き合って、家族の時間を大切にしたかった」。市販の教材を一緒に選び、ネットの動画や教材も試した。

「やりなさいと言ったのは（英語の）ライティングと算数だけ」。あとは自主性に任せた。同州はHSを正規教育と認める代わり、毎年1回、進度確認のテストを課す。州によっては親に大卒資格を求めたり、学校関係者の家庭訪問を義務づけたりする場合もある。

アルドリンさんは「生物が面白い」と学習を進め、今は近くの大学の講義に顔を出す。「学校だったら好きな科目にここまでのめり込めなかった」

息子2人もHSといい、「このやり方が最適なのか今も不安はある」とクリスティンさん。「でも家族の絆は強まったし、本当に楽しい時間を過ごせる」

HSでは友人と触れあう時間が減ると心配する親が多い。クリスティンさんの子供たちは、近くの「コンパス・ホームスクール」に通う。地域に住む現役教師や研究者らが週2回、5～18歳のHSの子供に様々な教科を教える。HSを補完するこのような場所は、「アンブレラスクール」とも呼ばれる。

設立者の一人、ジェニー・グローブ・ブラッドショーさんも双子の娘をHSで育てた。「娘たちが友人と一緒に何かに取り組める場所がほしい」と2012年、教会の建物を借りて始めた。今、500人が利用している。「学校の代わりでなく、子供の興味に応えたい」と、獣医学の専門家の授業、自称「戦争マニア」による世界史の授業もある。子供たちの年齢はバラバラ。「うちの地域でもやってみたい」と、問い合わせが絶えない。

ブラッドショーさんは「親だけが背負い込まず、地域で助け合えばもっといいものにできる」と話す。

公教育不信など背景

米国でHSが始まったのは1970年代。メサイア大学のミルトン・ゲイサー教授（教育史）によると、宗教教育を重視する保守的キリスト教徒と、ベトナム戦争後に公教育への不信を高めた左派の双方から自宅での教育を求める声が高まった。全50州で認められたのは93年だ。

米家庭教育研究所によると、2017年時点でHSの子供は約200万人で、なお増加傾向にある。当初は白人が大半だったが、今は3分の1が黒人やヒスパニック系。ゲイサー教授は「以前はイデオロギー的な理由が主だったが、今は教育内容で選ばれている」という。大学など複数の調査で、「子供によりよい教育を受けさせたい」という家庭が半分以上を占める。学校への不安もある。米国では15～16年に暴力や窃盗などの事件があった公立学校が79％を占め、銃撃事件も相次ぐ。高校生の10％が大麻使用経験があると答えるなど、薬物の蔓延も心配される。こうした状況から「学校の安全への不信」を理由に挙げるHS家庭も少なくない。

親に教育経験がなくても、ネット経由で良質な教育を受けられるようになった。新たな需要に対応しようとオンライン教育の種類も増えている。

同研究所のブライアン・レイ所長によると、複数の調査で、HSの子供の方が公立学校の子供より学力が高いという結果が出た。「学習意欲が高く目標がはっきりしたHSの子供を求める大学も多い」とレイ所長は言う。

HSに対しては肯定する声ばかりではない。

米国心理学会は「HSは親の恩想的な影響を受けすぎる」「社会性が身につかない」と指摘する。一方、HS経験者の方が大人になってから社交性が高かったり、政治への関心が強かったりするとの研究結果もあり、議論は続いている。

親が子供と一緒にいる時間を確保しなければならないHSは、共働きでは難しいとの見方がある。「HSの子供の方が学力が高い」との研究も、対象の多くは白人で母親が仕事をしていない裕福な家庭だ。「様々な階層が通う学校の子供たちと比べれば優位は当然」という研究者もいる。

一方、HSが虐待の温床になっているとも言われる。ジョージア州で昨年12月、10代の兄妹の遺体が民家の庭で見つかり、同居の父親ら数人が殺人容疑で逮捕された。兄妹は「HSをする」として学校をやめさせられていた。同州では家庭が年に1回子供の名前や年齢を報告するだけでHSを認めている。

非営利団体「責任ある自宅教育連合」によると、00～12年、HSの家庭で虐待やネグレクトによって子供が死亡したのは84件。一般家庭よりもその死亡率は高いという。同連合は「HSが虐待を生むとは考えないが、学校に通うのを前提とする現在の虐待対策は十分ではない」としている。

「社会性身につかない」「虐待の温床」指摘も